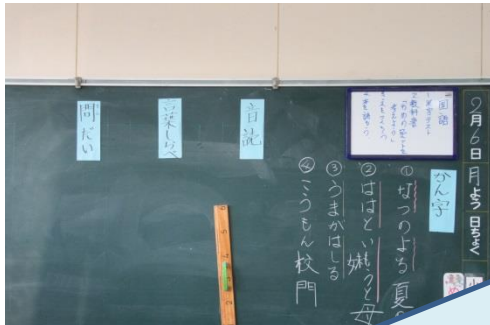
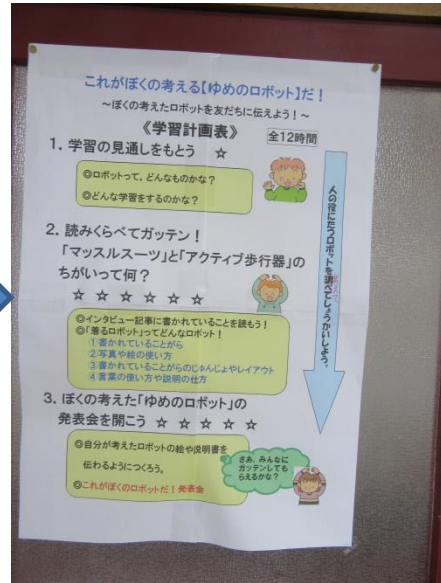


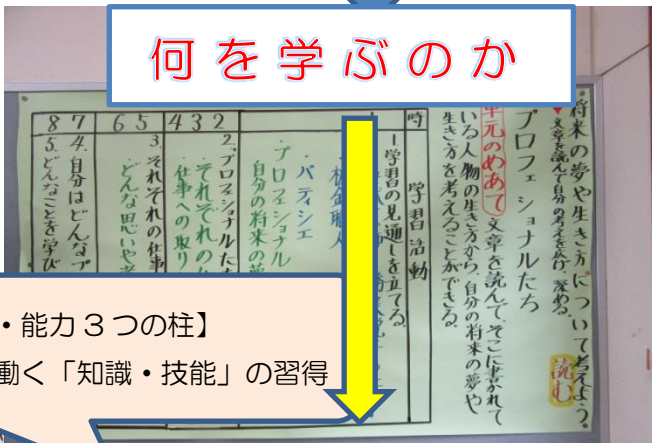
次期学習指導要領



「めあて」の提示
1時間の課題になっているか。子どもの意欲
が高まる課題設定になっているか。

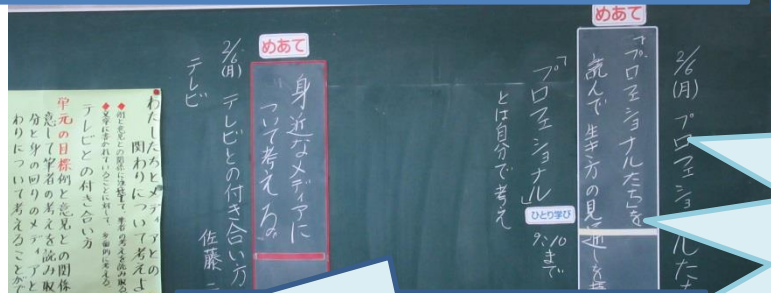


何を学ぶのか



【資質・能力3つの柱】
生きて働く「知識・技能」の習得

何ができるようになるか



単元を通して何を学ぶのか
そのための1時間であることを考えて
授業する。

一人学び (10分)
「プロフェッショナルとは何か、
自分の考えをまとめる」
共学び (10分)
**共学びの課題は何か！ここが重要。
ペアでグループで2回話すのなら
それぞれの目的が必要。**

↓

例
「互いの考えを聞いてお互い質問
や感想を言い合おう」という課題に
する。ただ話し合っただけではわ
からない。

まとめが大事
何を学ばせるのか
明確にもつ。

どのように学ぶのか



【資質・能力3つの柱】
未知の状況にも対応できる
「思考力・判断力・表現力等」の育成

「共学び」
教師の指名・児童間の指名
何を話し合うのか目的を持つ
教師は「共学び」こそしっかり把握



挿歌 とも学びカード 中浜小学校

話し合うときのポイント

- わからぬことを質問しよう。
「どうして〇〇になるの？」
- ちがうところを見つけよう。(どちらがいちやり方、どちらが何を考えよう)
- 同じところを見つけよう。

「〇〇が同じだね。」
「〇〇さんの考え方のほうがわかりやすいよ。」

☆いちやり方や考え方をノートに◎として必ず書くようにしよう。

司会の仕方
司会「〇〇について話し合います。一人ずつ自分の考えを書いて下さい。」
・理由づけしながら、自分の考えや意見をきちんと話す。
・考えや意見を言えない人は、「少し考えさせて下さい」と言う。
司会「質問はありませんか。」
・みんなの考えを聞いた後に質問をする。
司会「〇〇が同じ考え方ですね。」

答えが同じで考え方がちがう時
司会「わかりやすいやり方(考え方)はどれですか。」
・意見を出し合って、最適なやり方を見つける。

答えも考え方もちがう時
・意見を出し合って、正しい答えをみちぎ出す。
・ほかのグループの解き方を見て考え合う。
・教科書の学習内容を覚えて考え合う。
・先生に助言を求める。

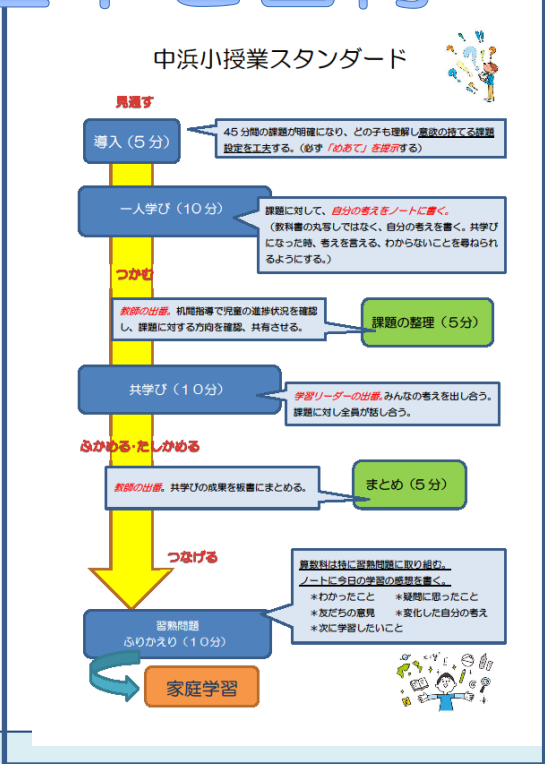
答えを自分だけが出す時
司会「正しい考え方は〇〇です。わかったことをノートの隅に書く。」

争いがあっても
・グループでまとめたことを発表し

本が読める子
= 国語の授業
開始



授業の基本を習得



複式授業には次期学習指導要領の求める授業改善の視点が！

複式授業→教師の授業力を向上させる

(物理的に児童に任さざるを得ない。しかし、任じきれない。それは評価。つまり教師の学習の評価者としての指導力が身につく。)

教科の横断化・教育内容を組織的に配列

教科担任制→各教科の各学年の内容が系統的に把握できる

人工知能がいかに進化しようとも、それが行っているのは与えられた目的の中での処理である。一方で人間は、感性を豊かに働かせながら、どのような未来を創っていくのか、どのように社会や人生をより良いものにしていくのかという目的を自ら考え出すことができる。多様な文脈が複雑に混じり合った環境でも、場面や状況を理解して自ら目的を設定し、その目的に応じて必要な情報を見だし、情報を基に深く理解して自分の考えをまとめたり、相手にふさわしい表現を工夫したり、答えのない課題に対して、多様な他者と協働しながら目的に応じた納得解を見いだしたりすることができるという強みを持っている。

このために必要な力を成長の中で育んでいくのが人間の学習である。

解き方があらかじめ定まった問題を効率的に解いたり、定められた手続きを効率的にこなしながらすること留まらず、直面する様々な変化を柔軟に受け止め、感性を豊かに働かせながらどのような未来を創っていくのか、どのように社会や人生をより良いものにしていくのかを考え、主体的に学び続けて自らの能力を引き出し、自分なりに試行錯誤したり、多様な他者と協働したりして、新たな価値を生み出していくために必要な力を身につけ、子ども達一人一人が予測できない変化に受け身で対処するのではなく、主体的に向き合って関わり合い、その過程を通して、自らの可能性を発揮し、より良い社会と幸福な人生の創り手になってけるようにすることが重要である。



これまでの学校教育で育まれてきた「生きる力の育成：知・徳・体びバランスのとれた人間教育」
時代の変化という「流行」の中で未来を切り拓いていくための基板は、学校教育における「不易」たるものの中で育まれる。

主体的な学び

協働的な学び
(対話)

問題を解決し新たな
価値を創造する学び
(深い)

授業改善の視点

【資質・能力3つの柱】
「学びに向かう力・人間性」の
涵養

全教育課程で=教科と教科をつなぎ効果的な教育課程の編成
地域に開かれ教育課程→社会の一員としての自覚・社会貢献できる人材育成

生徒指導と学習指導の関連

児童理解・児童相互の人間関係・自己実現